

茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学専攻 令和7年度後期 教育点検報告書

令和8年 3月 23日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田 隆郎

1. 実施日時と場所

令和7年3月23日(月) <午前>11:10~11:45 (TEAMS オンライン)

<午後>12:45~14:15(対面 S3棟3階会議室+TEAMS オンライン)

2. 出席者

常勤教員：遠藤克彦，熊澤貴之，桑原祐史，小林薫，原田隆郎，平田輝満，藤田昌史，久野靖広，車谷麻緒，肥田剛典，稲用隆一，増永英治，伊藤大知，一ノ瀬彩，海野遥香，大村高広（全常勤教員17名のうちの17名が出席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2025年度(後期)専攻_教育改善委員会議事録

資料1-2 2025年度(後期)都市システム工学科_専攻_FD研修会議事録

資料2 2025年度(後期)学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会議事次第

資料3 2025年度後期 授業点検改善表集(専攻)

4. 授業点検の実際

4.1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分：13科目／常勤教員担当科目総数13科目

非常勤教員担当科目分：0科目／非常勤教員担当科目総数0科目

4.2 点検した科目

沿岸環境形成工学特論Ⅰ，沿岸環境形成工学特論Ⅱ，地球・海洋環境保全科学特論Ⅰ，地球・海洋環境保全科学特論Ⅱ，交通工学特論，維持管理工学特論，建築史・意匠特論Ⅱ，建築都市デザインスタジオⅢ，建築実務実習，地盤材料学特論，建築構造デザイン学特論，GIS地域調査・分析法特論，建築都市デザインスタジオⅣ（前期に開講した専門科目の総数13科目中の100パーセント）

4.3 具体的な点検方法

後期に開講した 13 科目中 13 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 3 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、点検を実施した。
- ・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じて議論した。
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況についても、確認した。
- ・ TA を利用している授業は、TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている。
- ・ 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した。（R3 機関別認証評価対応）

4. 4（専攻の点検報告書のみ）特別実験，特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅱ，建築デザイン特別演習Ⅱ，社会基盤デザイン特別研究Ⅱ，建築デザイン特別研究Ⅱの 4 科目については、各教員から研究室ごとの状況について報告があり問題なく活動が進んでいることが確認された。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

「沿岸環境形成工学特論Ⅰ・Ⅱ」や「地球・海洋環境保全科学特論Ⅰ」では、クォーター制を活用した開講時期の工夫により受講者数が増加し、有限振幅波やフーリエ解析など実務・研究に直結する演習が高く評価された。「維持管理工学特論」や「建築構造デザイン学特論」では、外部実務者の招へいや実際の構造図・計算書を用いた講義により、実務理解が深まっている。また「地盤材料学特論」では学生自身の研究テーマと関連づけた自由度の高い課題設定により、完成度の高い成果が得られた。さらに「建築都市デザインスタジオⅣ」の大学間・地域連携ワークショップは、教育的効果と社会的意義の両面で優れた取り組みであった。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

「地球・海洋環境保全科学特論Ⅱ」や「建築実務実習」では、就職活動やインターンシップと開講時期が重なり出席不足や履修断念につながる事例が見られた。「交通工学特論」や

「建築史・意匠特論Ⅱ」では、授業アンケートの回収率や実施時間の確保が不十分であり授業内での確実な実施が求められる。また「建築都市デザインスタジオⅢ」では、課題選択の幅を広げた結果、授業密度が低下した点が反省点として挙げられ教育内容の改善を検討している。さらに履修者数の増減や少人数科目への対応についても、授業運営方法の継続的な検討が必要である。

6. 教育改善活動

会議中に抽出された問題点について、その改善方法を議論したところ、以下のような意見があった。

- ・ 就職活動やインターンシップ活動のため授業を欠席する学生が目立つが、本専攻では授業優先であるという共通認識が確認された。
- ・ 講義によって就職活動の面接等に参加できなくなる場合、授業担当教員や指導教員に相談し面接日程を変更してもらうべきだという意見が出た。企業優位で学生が振り回されないように指導すべきである。
- ・ 履修者数の対応や専攻科目の配置などについては継続的に議論・検討することとなった。

また、午後のFD研修会では、**学生評議員による学生懇談会の結果**について、専攻教員で共有し議論を行った。

- ・ 学生評議委員は主に3年生および大学院生(M1)で構成されており学年間のサンプルに偏りはあるものの、都市システム工学専攻としては比較的バランスよく意見が集約できているとの評価があった。
- ・ 一方で、アンケート結果を学科内で共有した後、その内容に基づく対応や学生へのフィードバックが十分に行われていない点が問題として指摘された。
- ・ アンケート結果をFDで共有し、議論した内容や改善方針を学生に発信する仕組みを整えることで、教員と学生の双方向的な教育改善につなげるべきとの意見が出された。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類をTEAMS内に設置した学科FDチャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会における議論を受けて、FD研修会では学生のモチベーションをいかに向上させ、学習を促していくかについて議論を行い、学年別の成績分布等を比較し、近年の学生の学習状況を共有し適切な授業方法等についての議論を行なっている(資料1-2参照)。

現状の授業内容について土木・建築で共通する内容や、年次進行している新カリキュラム

の融合教育のメリットなどを整理し、今後の授業内容の改善について引き続き検討を続けることになった。

9. その他

特になし。